

令和8年5月27日

第1回 市立四日市病院 あり方検討委員会資料

政策的医療について 【がん医療】



1 本日はご議論いただきたいこと

■ 以下の論点について、委員の皆様のご意見をお聞かせください

論点1 今後、市立四日市病院は、がん拠点機能においてどのような役割を果たすべきか

北勢医療圏の観点 : がん需要・医療提供体制を踏まえ、当院が担うがん診療機能の方向性を検討する

論点2 当院のがん診療機能をどこまで維持・強化・機能分担するか

三泗構想区域の観点 : 当院の受入実績・地域連携の状況を踏まえ、がん診療機能の維持・連携のあり方を検討する

2-1 がん拠点病院の区分について

■ がん診療体制は、国指定病院を中核に都道府県独自指定病院が補完する構造で整備されている。

指定主体	区分	役割	備考
国の指定	都道府県がん診療連携拠点病院	都道府県におけるがん診療の質向上、均てん化、集約化、連携協力体制の構築等で中心的役割を担う	三重県内では三重大学医学部附属病院が指定
	地域がん診療連携拠点病院	医療計画で定める※がん医療圏ごとに、地域のがん診療連携を担う	
	地域がん診療病院	がん診療連携拠点病院がない※がん医療圏において、拠点病院と連携しながら、地域のがん診療を担う	三重県内は該当なし
	特定領域がん診療連携拠点病院	特定のがん領域について、都道府県内で専門的ながん診療を担う	三重県内は該当なし
都道府県の指定 (三重県の場合)	三重県がん診療連携準拠点病院	地域がん診療連携拠点病院を補完する役割を担う	
	三重県がん診療連携病院	地域がん診療連携拠点病院および三重県がん診療連携準拠点病院を補完する役割を担う	

※がん医療圏について
がん医療圏は、厚生労働省が全国一律に線引きするものではなく、各都道府県が医療計画の中で設定する区域である。国は整備指針を示し、当該がん医療圏ごとに地域がん診療連携拠点病院を整備する考え方を示している。

※三重県ではがん医療圏は構想区域と同じ区域で設定されている。

2-2 地域の医療提供体制

- 北勢医療圏では、地域がん診療連携拠点病院が2病院、三重県がん診療連携拠点病院が2病院、三重県がん診療連携病院が4病院指定されている。
- また、緩和ケアチームがある病院は6病院、緩和ケア病床を持つ病院は4病院である。

北勢医療圏におけるがん診療連携体制



北勢医療圏における緩和ケア提供体制

構想区域	主な病院	緩和ケアチーム	緩和ケア病床
三泗	市立四日市病院	○	—
	三重県立総合医療センター	○	—
	みたき総合病院	○	○ (30床)
桑員	桑名総合医療センター	○	—
	もりえい病院	○	○ (20床)
鈴亀	鈴鹿中央総合病院	○	○ (20床)
	鈴鹿医療科学大学附属桜の森病院	—	○ (25床)

○：あり —：なし

3-1 当院の状況 高度医療設備の保有状況

■当院は、SPECT等の放射線診断機器や強度変調放射線治療機器(IMRT)、内視鏡手術用支援ロボット等の高度な治療機器を有している。

構想区域	市町	施設名	診断装置				治療装置				—
			SPECT	PET	PET・CT	PET・MRI	ガンマナイフ	サイバーナイフ	強度変調放射線治療器(IMRT)	遠隔操作式密封小線源治療装置	内視鏡手術用支援機器
三泗	四日市市	市立四日市病院	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	四日市市	三重県立総合医療センター	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	四日市市	小山田記念温泉病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	四日市市	四日市羽津医療センター	1	1	0	0	0	0	0	0	0
桑員	桑名市	桑名市総合医療センター	1	0	0	0	0	0	1	0	1
	いなべ市	いなべ総合病院	0	0	0	0	0	0	0	0	1
鈴亀	鈴鹿市	鈴鹿中央総合病院	1	0	0	0	0	0	1	0	0
	鈴鹿市	鈴鹿回生病院	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	鈴鹿市	塩川病院	0	0	1	0	1	0	0	0	0

出典：厚生労働省 病床機能報告 2024年度（報告対象期間＝2023年4月～2024年3月）

3-1 当院の状況 がん患者の受入れ状況

■ 当院は、北勢医療圏内でがん患者の受入件数が最も多い。
がん種別では非ホジキンリンパ腫(血液がんの一種)327件、乳房305件、前立腺199件が上位であり、結腸143件、胃118件を含む上位5領域で1,092件、全体1,628件の約67%を占める。



順位	がん種／領域名	受入件数	シェア率 (北勢医療圏)	北勢医療圏内での位置づけ
1	非ホジキンリンパ腫	327件	45.3%	一番多い
2	乳房の悪性腫瘍	305件	51.6%	一番多い
3	前立腺の悪性腫瘍	199件	25.0%	一番多い
4	結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	143件	16.2%	
5	胃の悪性腫瘍	118件	18.2%	
6	子宮頸・体部の悪性腫瘍	87件	30.3%	
7	肝・肝内胆管の悪性腫瘍（続発性を含む。）	77件	19.9%	一番多い
8	直腸肛門（直腸S状部から肛門）の悪性腫瘍	71件	32.4%	一番多い
9	食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	65件	52.4%	一番多い
10	卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	59件	50.0%	一番多い
11	脳腫瘍	53件	37.3%	一番多い
12	多発性骨髄腫、免疫系悪性新生物	43件	44.8%	一番多い
13	皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	35件	70.0%	一番多い
14	甲状腺の悪性腫瘍	20件	64.5%	一番多い
15	小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	13件	52.0%	一番多い
16	胆嚢、肝外胆管の悪性腫瘍	13件	17.8%	
17	頭頸部悪性腫瘍	10件未満	—	順位判定困難
18	縦隔悪性腫瘍、縦隔・胸膜の悪性腫瘍	10件未満	—	順位判定困難
19	骨の悪性腫瘍（脊椎を除く。）	10件未満	—	順位判定困難
20	軟部の悪性腫瘍（脊髄を除く。）	10件未満	—	順位判定困難
21	黒色腫	10件未満	—	順位判定困難
22	外陰の悪性腫瘍	10件未満	—	順位判定困難

出典：基礎調査報告書 p.64

※件数は手術有・手術無の合計。シェア率＝市立四日市病院の受入件数÷北勢医療圏内の表示件数合計。

※公開シェアの特性上、10件未満の領域は表記されていないため、シェア率・順位は算出対象外。

出典：厚生労働省 DPC導入の影響評価に係る調査「退院患者調査」2023年度、基礎調査報告書 p.64

4-1 将来ニーズ 将来推計患者数・北勢医療圏のMDC疾患分類別 新生物(がん)の2040年患者数増減

■北勢医療圏では、がん入院需要は2045年頃まで増加すると推計される。
がん種別でみると、2040年時点では前立腺・胃・結腸は患者母数が多く、増加率も高い一方、子宮頸、体部・乳房は患者母数大きいが今後減少傾向となる。

北勢医療圏 | 2025年→2040年の比較

北勢医療圏におけるがん入院需要の将来推計



出典：基礎医療報告書 p.67

区分	傷病名	2025年患者数	2040年患者数	増減数	増減率
増加領域	① 前立腺の悪性腫瘍	968	1,072	+104	111%
	② 胃の悪性腫瘍	931	1,017	+86	109%
	③ 結腸（虫垂を含む。）の悪性腫瘍	1,198	1,275	+77	106%
	④ 肝・肝内胆管の悪性腫瘍（原発性を含む。）	615	669	+54	109%
	⑤ 非ホジキンリンパ腫	721	770	+49	107%
	⑥ 食道の悪性腫瘍（頸部を含む。）	478	512	+34	107%
	⑦ 直腸肛門（直S状部および肛門）の悪性腫瘍	692	721	+29	104%
	⑧ 口腔・咽頭・喉頭の悪性腫瘍	270	299	+29	111%
	⑨ 頭頸部悪性腫瘍	345	359	+14	104%
	⑩ 皮膚の悪性腫瘍（黒色腫以外）	119	131	+12	110%
	⑪ 多発性骨髄腫、多発性免疫系悪性新生物	129	138	+9	107%
	⑫ 小腸の悪性腫瘍、腹膜の悪性腫瘍	127	129	+2	102%
	⑬ 骨の悪性腫瘍（脊椎を除く。）	111	113	+2	102%
	⑭ 卵巣、腹膜の悪性腫瘍	12	13	+1	108%
	⑮ 黒色腫	40	41	+1	103%
横ばい領域	⑯ 脳・中枢神経系腫瘍、髄膜・脳膜の悪性腫瘍	53	53	±0	100%
	⑰ 外陰の悪性腫瘍	10	10	±0	100%
減少領域	① 子宮頸・体部の悪性腫瘍	744	665	-79	89%
	② 乳房の悪性腫瘍	957	887	-70	93%
	③ 卵巣・子宮附属器の悪性腫瘍	366	340	-26	93%
	④ 甲状腺の悪性腫瘍	126	120	-6	95%
	⑤ 軟部の悪性腫瘍（脊椎を除く。）	79	77	-2	97%
合計		9,091	9,411	+320	104%

実数ベースでは、増加幅が大きいのは 前立腺 (+104人)、胃 (+86人)、結腸 (+77人)。
一方、減少幅が大きいのは 子宮頸・体部 (-79人)、乳房 (-70人)、卵巣・子宮附属器 (-26人)。
横ばいは 脳膜癌性腫瘍、外陰。

出典：基礎医療報告書 p.67

5 がん医療についてのまとめ

観点	データから確認できる事項	検討論点
 将来需要	・北勢医療圏のがん入院需要は2040年ごろまで増加し、その後も大きく減少はしない。 ・部位別には前立腺・胃・結腸で増加傾向である。 ・減少傾向にあるのは子宮頸・体部、乳房である。	・がん診療における当院の役割(拠点機能について) ・需要増減が見込まれる部位への対応(強化・維持・縮小等)
 地域提供体制	・北勢医療圏では、当院が地域がん診療連携拠点病院を担っており、その他に三重県がん診療連携準拠点病院・三重県がん診療連携拠点病院が配置されている。 ・緩和ケア病棟を有する病院も医療圏内に配置されている。	・がん診療における機能分担の考え方(一般的ながん(胃・大腸など)、希少がんへの対応等)
 当院の状況	・当院は北勢医療圏内での主ながん疾患の受け入れ件数が最多(1,628件)となっている。 ・部位別では、非ホジキンリンパ腫・乳房・前立腺・肝、肝内胆管など11部位で北勢医療圏1位の受け入れ件数となっている。 ・IMRT等のがん診療に係る専門治療機器を有している。	

